



東京支部 第1回次世代交流会を開催

東京支部は7月4日、地本会議室において「第1回次世代交流会」を開催した。

次の世代に国労運動を継承していくことが最重要課題であったわけだが、ようやく第一歩を踏み出した。

第1部では、野佐根委員長から、「新支部が発足して4ヶ月が経った。大きな課題は労働運動を引き継ぐ事、次の世代と今いる私達が一緒に運動していくことが大切。今日は上映会をしながら交流を深めていきたい」とあいさつを受け、「遠い一本への道」のDVDを鑑賞した。

第2部では、映画を観ての感想や職場実態交流、そして国労に対しての思いなどが率直に語られた。紙面の都合上、すべては掲載できないが、中堅クラスの意見を中心に紹介したい。



「今日は顔合わせ、堅苦しくなく交流していきましょう」と挨拶する野佐根委員長

▼妻と娘一人の家族でも生活はかなり苦しい、どうにか変えていきたい。自分たちの下の世代は会社の言うことを聞いていれば良いと思っているようだが、不満も多く愚痴も出ている。中々ふんざりにつかないようだが「こっち（国労）に來い」と言っている。

▼国労に加入してから、試験に受からないことをずっと経験してきた。今日の映画を観て、賃金差別はマル生の時代から続いていることを知った。家庭もあり賃金差別は厳しいが、自分は「人間らしく生きたい」。

▼自分としては仕事が心配。どんどん効率化され、今日はA駅、明日はB駅など、違った駅で働かされるようだ。5年後は、どうなっちゃうんだろう、との不安がある。

▼日勤職場なので手当てがつかない。超勤もほぼない。基本給と都市手当しかつかず、同年代の仲間と比べると賃金が安い。夏は暑く、冬は寒い中で作業させられて、割に合わない。

▼鉄道は安定しているが安月給。妻も同じ会社にいるが、将来的には子供もほしい。しかし今の給料では不安。

▼映画を観て、今も昔も賃金が安いというのは感じた。いろんな形で合理化は進められるが、安全を守っていく必要性はあると思う。

▼職場では仲間同士が競争させられ、自分さえよければよい、との雰囲気がつくられている。みんなで支えあって仕事をする、という意識が低い。なんとかして職場の雰囲気を変えたい。

鈴木書記長まとめ

コロナ禍で正規・非正規、企業は大手・中小・零細と大きく分断されている。どんどん弱者が淘汰され、憲法25条にある「健康で文化的な生活」が奪われている。

今日の交流会でも意見が出されたが、本当に自分たちは低賃金で働かされ、生活することもままならない状況となっている。労働者同士が競い合っても労働者の地位は上がらないし、権利も守れない。

さまざまな矛盾にメスを入れていくのが労働組合の任務である。

支部として、今後も今日のような「次世代交流会」を継続していきたい。



早川青年部長あいさつ



2013年に入社しまして東京車両センター車体科に配属されました。231系や233系の車体保全や機器更新工事を担当しています。東労組が分裂した時、労働組合としてちゃんと運動している国労に加入しました。

国労に加入し、労働運動をちゃんと行えていることに喜びを感じます。

これまで国労として春闘の取り組み、大会の発言や団体交渉など、大ベテランである先輩たちから学んで活動してきました。

これからもお世話になる予定ですのでよろしくお願いします。

しかし、数年後には皆さん退職を迎え、国労を引退する時がきます。そうした時に国労が弱体化することのないよう、皆さんから労働運動の経験や技術を学ぶのが、青年部はじめ残される組合員の使命であると考えます。

学ぶための第一歩が、今回のような交流だと思います。他愛のない会話でも昔ばなしでも自慢話でも構いません。学習会だけが勉強でもなくて、どんな話でもどこかで役に立つと思い交流させていただきます。

若い人が少ないですが、組織拡大をして、部屋満員で交流会ができるようお願い、努力する決意を述べて挨拶とさせていただきます。ともに頑張りましょう！

編集後記

コロナ禍で集まる場が制限される中、今回のような交流会を持てたことが何よりうれしい。やっぱり若い人と交流すると元気が出る。

さて、若干歴史を振り返ってみたい。幕末には多くの若い人たちが世の中を変えるために東奔西走した。私が好きなのは松下村塾で学んだ志士たちである。吉田松陰のもと、多くの志士たちが理論を学び、そして行動してきた。結果、歴史は動いた。

学習といえば「青年部がするもの」と思いがちだが、そうではない。自分もあと1年半で退職だ。なんとか次の世代に運動を引き継ぎたいと考えてはいるが、これまた一筋縄にはいかない。

こんな時に思い出すのが、青年部時代の学習会だ。職場の青年部が先輩の指導のもと、学習会をはじめた。お互いの家まで足を運ぶこともあった。家族との夜遅くまでの交流、時には泊まることもあった。30年も前の話である。

学習は嘘をつかない。「理論と実践」の青年部運動とよく言われたが、学習するのに早いも遅いもない。私も闘いの武器である学習をもう一度大切に、労働運動の強化のため、奮闘していきたい。(KEN)